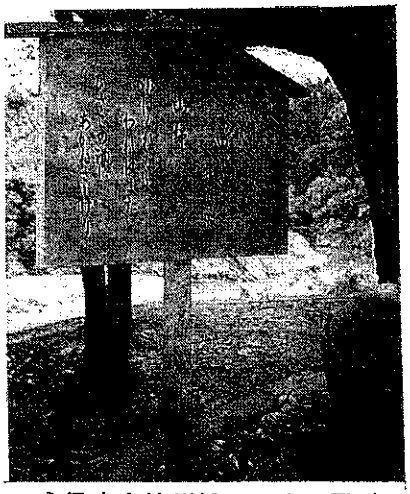
弁護士日記

永保寺と文部大臣

高田早苗の歌碑

美和勇夫

三井物産の友人
「いやあ、岐阜の市長選は、わが社が頑張ったよ。ありゃあ俺が当選させたようなもんだ」
私「わかった、わかった。いやあごくろうさん」
友人「ところでオヌシ、早稲田だったな?」
「凱旋(戦勝)祝いに久しぶりに虎渓山へ行ったが心字池のんもんがなぜ立っとるのか?」
私「高田総長なんてのは、たしか、古い戦前の人でそんな人が、今頃虎渓山へ来るはずがないだろう」
友人「ワセダを出て長年、虎渓山のほとりに住んでおって高田早苗の歌碑を知らんちゅうのはダチャカンぞ」
私「テマエの大学(名大)の総長の名も知らんくせに、よお言うわ」
○　○　○　○
そういうわけで、さっそくに、このたび新装なった永保寺を訪れてみた。
○　○　○　○
臥龍池(心字池)から東へ、土岐川に向かった所に、いかにも古ぼけた歌碑があり、かたわらに立札が立っている。



永保寺土岐川沿いにある歌碑

〝山錦　水はくれなひ
われはまた
ひさごの酒に
あかね　さしけり〟

なるほど、夢窓国師の禅林風庭園の、おもかげを色濃く残す、人里はなれた錦秋の心字池のほとりで、まっかなもみじに染まる中、ひさごで酒をくみかわす昔の情景が目に浮かぶ秀作である。
○　○　○　○
高田早苗は、大隈重信(初代総長)が総理大臣であった時の文部大臣。不屈の立憲政治家。のち第二代の早大総長となった。
旅と酒を愛した、若山牧水、会津八一とならぶワセダの歌人でもある。
〝長旅の重荷残して
昼寝かな〟
この句を残して没(昭和十三年)となっている。
昔の政治家は偉大な人が多かった。
(筆者は多治見市上野町在住)